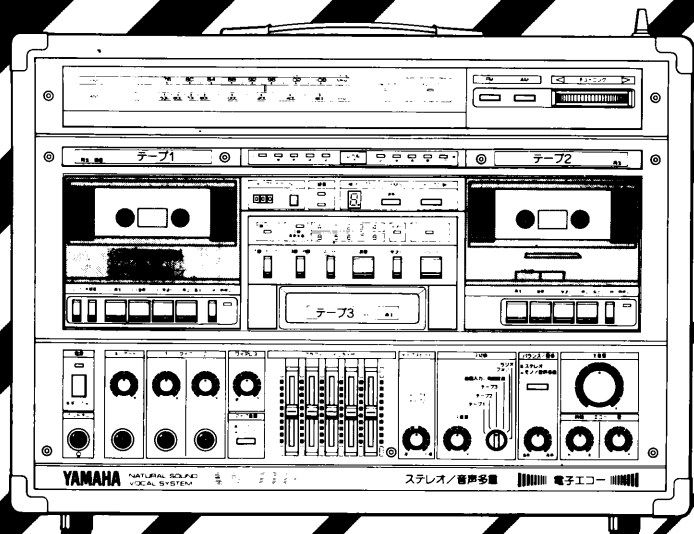




カラオケ ボーカルシステム

VS-33D

取扱説明書



- 保証書を必ずお受けとりください。
- お使いになる前に取扱説明書をよくお読みください。また、お読みになったあとは必ず保存してください。

このたびは、ヤマハ・ボーカルシステムVS-33Dをお買い求めいただきまして
まことにありがとうございました。

VS-33Dの優れた性能を十分に発揮させるとともに、長年支障なくお使いいた
だくために、この取扱説明書をぜひお読みくださいますようお願いいたします。

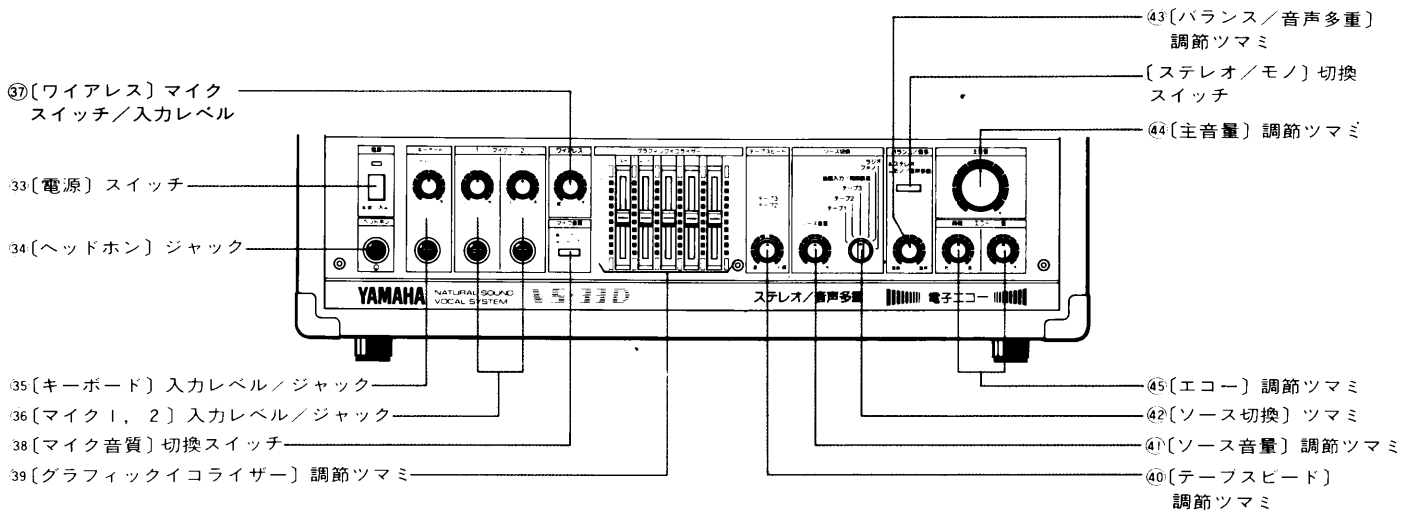
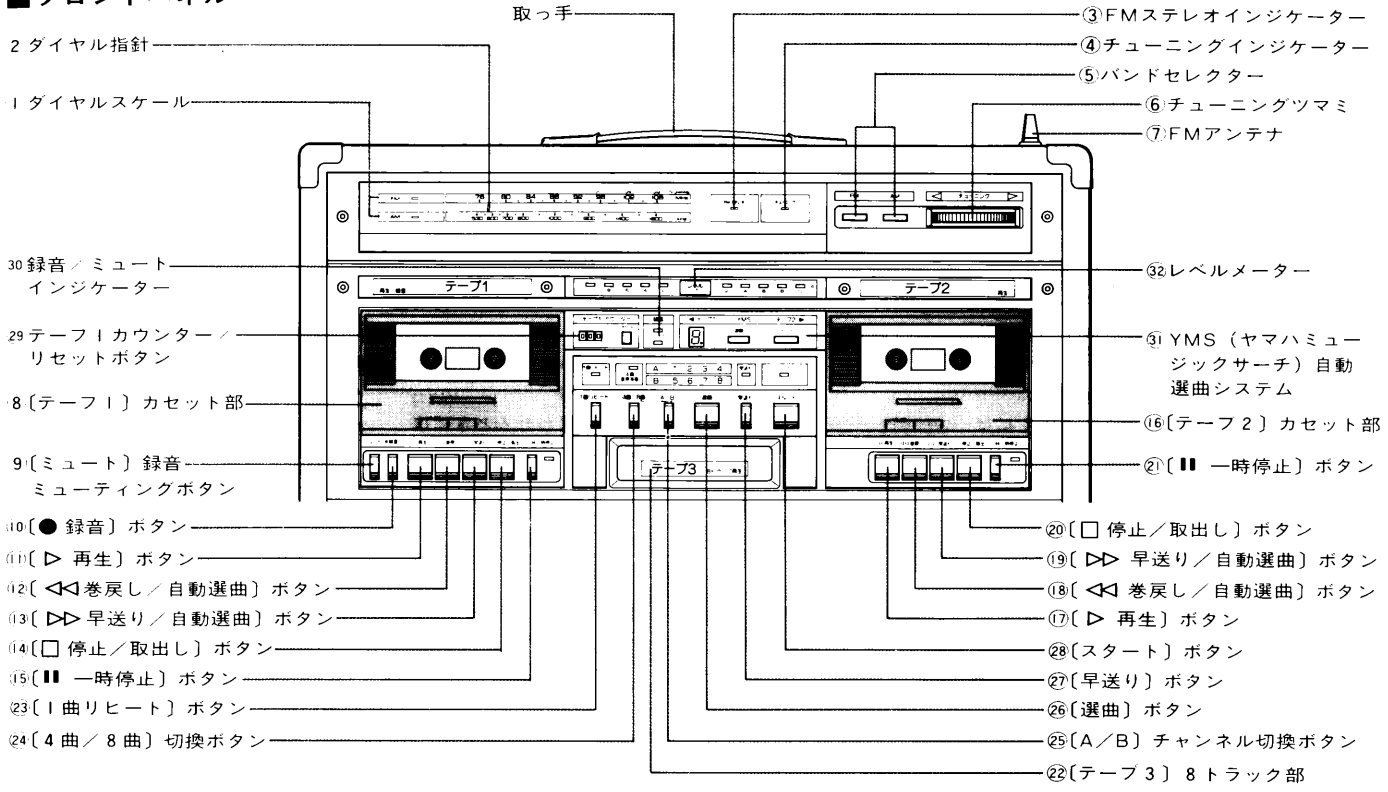
〔目次〕 特長	1	■グラフィックイコライザーの使いかた	15
各部の名称	2	■マイク音質切換スイッチについて	15
接続図	3	■マイクミキシング（カラオケ）演奏をするには	16
ご使用の前に次のことにご注意ください	4	■ワイアレスマイクの使いかた	17
各部の機能	5	■ミキシング録音のしかた	17
電源について	9	■チューナーの録音（エアチェック）のしかた	19
メンテナンス	9	■ダビングのしかた	19
カセットテープと8トラックテープについて	10	■キーボード演奏のしかた	20
演奏（操作）のしかた		■レコード／有線放送の聴きかた	20
■チューナーの聴きかた	11	参考仕様	21
■カセットテープを聞くには	12	故障と思われるときには	22
■YMS自動選曲の使いかた	13	サービスのご依頼について	23
■8トラックテープを聞くには	14		

特 長

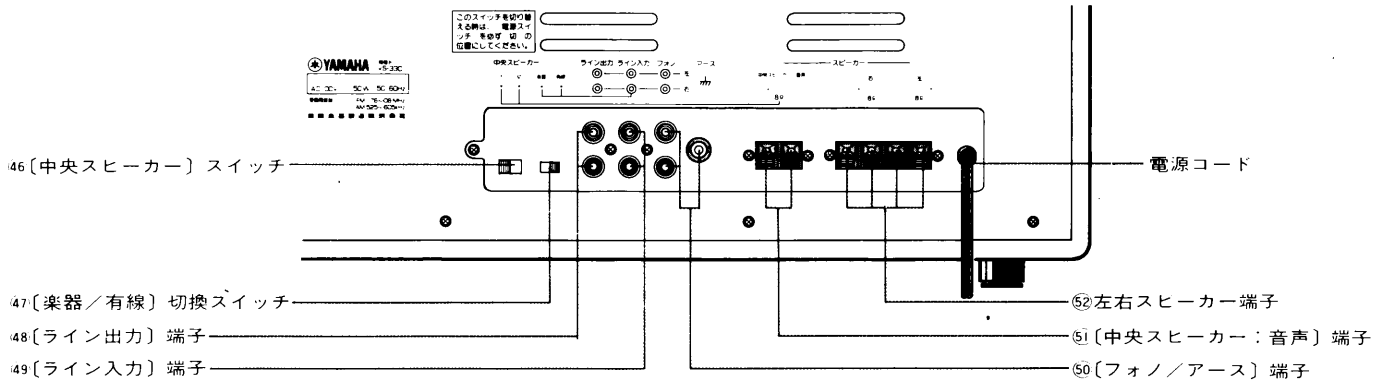
- カセット+カセット+8トラックのトリプルメカ
音質のよいコンパクトカセットデッキを2台搭載、YMSによる前後9曲飛越選曲が可能なダブル選曲メカです。テープ3は選曲が簡単な4/8切換、A/B切換、リピート機能、高速頭出し4倍速8トラックメカです。更に、テープ2、テープ3からテープ1へのダビングが可能です。
- 5素子グラフィックイコライザー
お部屋や会場に合わせた好みの音場が作り出せます。
- マイク音質切換
声の質や好みに合わせてマイクの音質が選べます。
- スーパー電子エコー
プロ機に搭載のダブルBBD電子エコーを搭載。エコーの時間と量が自由に選べます。また、ノイズリミッター付きエコー回路により、BBDのいやなノイズがなくカラオケが楽しめます。
- マスターボリューム
カラオケとボーカルのミキシング量等を調節した後、全体の音量調節ができ、場所に合わせた音量が自由に設定できます。
- キーボード端子
キーボードを弾きながら自由なカラオケが楽しめます。更に、音量調節が可能ですから、楽器としても楽しむことができます。
- 外部入力端子
ソースのデジタル化に対応した外部入力端子を装備し、CDカラオケが楽しめます。更に、有線放送も楽しめます。
- フォノ入力端子
MM型カートリッジ用イコライザーアンプを内蔵していますので、レコードプレーヤーを接続し、システムコンポーネントとしても楽しめます。
- ライン出力端子
大会場で別アンプやスピーカーを接続し、更に大出力でカラオケが楽しめます。又、他のテープデッキを接続して、ダビングもできます。
- 音声多重対応（バランスボリューム付き）
音声多重対応ボリュームを備えており、カラオケのレッスンの際など先生の歌を聞きながら、楽しく曲が覚えられ、かつ早く上達することができます。
- ハイパワー設計
出力は40W+40W+40Wでプロ歌手感覚のハイパワー設計です。
- スーパーステレオ音場
別売スピーカーSP-33S、SP-33Cを接続し、ご家庭にしながらステージそのままの大迫力カラオケが楽しめます。
- ワンタッチレックミュート
録音中にボタンを押すことにより、自動選曲で必ず必要な無録音部分を自動的につくることができます。
- FM/AMチューナー搭載
FMワイドバンドチューナーを搭載し、テレビの1~3チャンネルの音声を楽しめます。更に、FMワイアレスマイクも使用できます。
- 本格的な外装
黒を基調とした高級レザー貼り仕上げで、コーナーには金具を配しています。
- 新開発カラオケ専用スピーカー（別売）
サイドスピーカー（SP-33S）……ツインドライブφ20
ホワイトコーンウーハーとセクトラル付φ6.5ツイーターによる、2ウェイ3スピーカーバスレフトールボーイ型。
センタースピーカー（SP-33C）……φ20ホワイトコーンウーハーとφ6.5ツイーターによる、2ウェイバスレフト型。

各部の名称

■フロントパネル

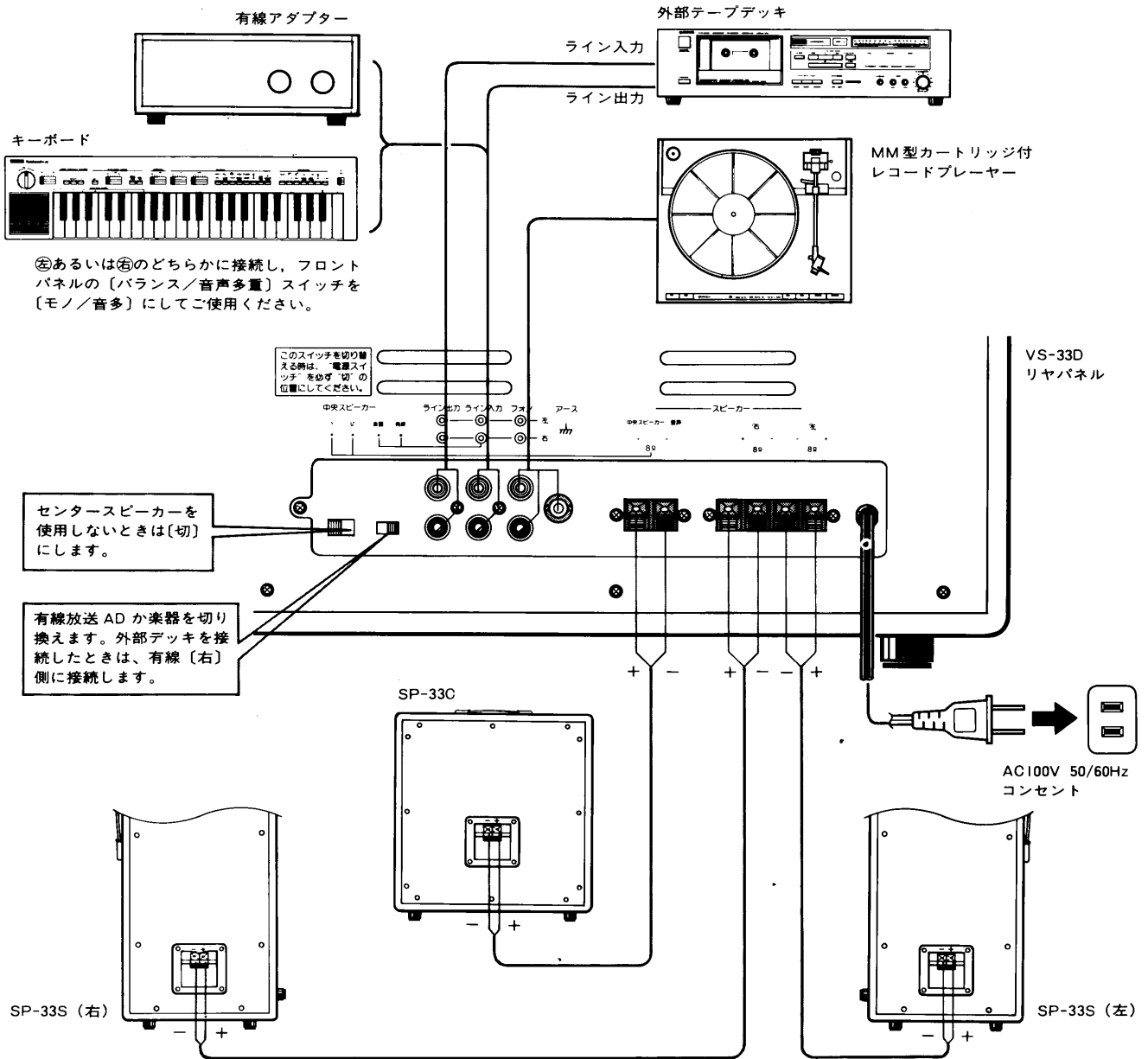


■リヤパネル

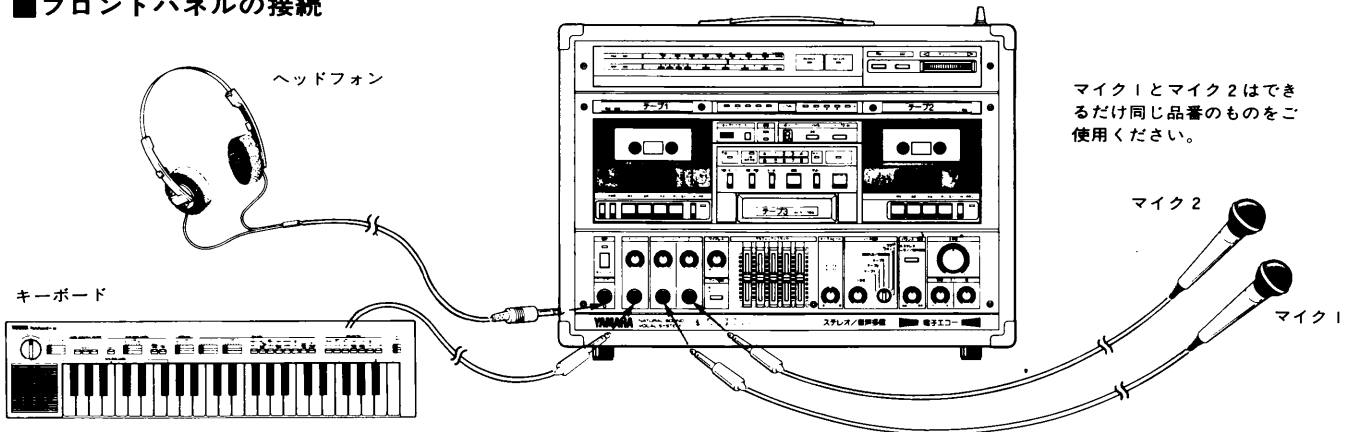


接続図

■リヤパネルの接続



■フロントパネルの接続



ご使用前のことに次のことにご注意ください

設置場所について

次のような場所でご使用になりますと、音質が悪化したり故障などの原因となります。ご注意ください。

- 窓際など直射日光の当たる場所や、暖房器具のそばなど極端に暑い場所（周囲温度40℃以上）、または温度の特に低い場所（周囲温度-5℃以下）では製品の正常な機能を維持できない場合がありますので避けてください。
- 湿度の高い場所（湿度90%以上）では金属部品にサビを生じたり、故障の原因となりますので避けてください。
- ホコリの多い場所ではスイッチなどの接触不良や雑音等の発生原因になり性能をそこなうことがあります。
- 結露が発生した場合、一時的に正常動作をしないことがあります。
- その他、トランスやモーターの近くの設置は誘導ハムをひろう原因となりますので、離して設置してください。また、振動の多い場所も避けてください。

セットのお手入れには

セットをベンジン、シンナー系の液体で拭いたり、化学ぞうきんを使ったり、近くでエアゾールタイプの殺虫剤を散布することは避けてください。

お手入れは、必ず柔らかい布でからぶきするようにしてください。

取り扱いはいないに

スイッチやツマミ、キャビネットなどに無理な力を加えることは避けてください。

電源は

本機は、国内電源 AC100V（50/60Hz）でお使いください。この電圧以外でのご使用は保障できかねます。また、電源コードは大切にお使いください。特に、コンセントからはずすときは、必ずプラグを持って抜いてください。

落雷に対する注意

落雷のおそれのあるときは、早めにコンセントから電源プラグを抜きとってください。

水に濡れたら

万一雨がかったり、花瓶などの水をセットにこぼしたときは、すぐに電源プラグを抜いて販売店にご連絡してください。この状態で電源を入れた場合、発煙や故障の原因となりますのでご注意ください。

ケースを開けない

裏ふたを開けて内部に手を触れますと、故障や感電事故を起こすことがあります。何か異物が入ったときには、すぐに電源プラグを抜いて販売店にご連絡ください。

保証書の手続きを


お買い求めいただきました際、購入店で必ず保証書の手続きを行なってください。保証書に販売店名、購入日などがないと、保証期間中でも万一サービスの必要がある場合、実費をいただくこととなりますのでご注意ください。

もう一度調べてください

故障かな？と思ったら、まず22ページの「故障と思われるときには」をご覧ください。意外なところで操作を誤っていることがあります。

保管してください

この取扱説明書をお読みになりました後も、保証書と共に大切に保管してください。

 これは電子機械工業会「音のエチケット」キャンペーンのシンボルマークです。

音楽を楽しむエチケット

楽しい音楽も時と場所によっては大変気になるものです。隣近所への配慮を十分にしましょう。静かな夜間には小さな音でもよく通り、特に低音は床や壁などを伝わりやすく、思わぬところに迷惑をかけてしまうことがあります。適当な音量を心がけ、窓を閉めたりするのも一つの方法です。音楽はみんなで楽しむもの、お互いに心を配り快適な生活環境を守りましょう。

各部の機能

①ダイヤルスケール

FM……FM放送の周波数目盛 (MHz) です。

テレビの1～3チャンネルも受信できます。

AM……AM放送の周波数目盛 (kHz) です。

②ダイヤル指針

チューニングつまみ⑥を回して、指針を受信する放送局の周波数に合わせます。ワイアレスマイクを受信する場合は、FM放送の周波数をワイアレスマイクの指定周波数に合わせてください。

③FMステレオインジケータ

FM放送受信の際、放送がステレオ放送の場合、自動的にこのインジケータが点灯し、モノラル放送になると消えます。(AM放送の受信では点灯しません。)

④チューニングインジケータ

FM放送あるいはAM放送を選局する際、このインジケータが点灯するようにチューニングつまみで調節します。

⑤バンドセクター (FM/AM)

FM放送かAM放送か、受信する放送を選びます。

⑥チューニングつまみ

放送局を選局するつまみです。チューニングインジケータが点灯するようにダイヤル指針を合わせてください。ワイアレスマイクを受信する場合は、FM放送の周波数をワイアレスマイクの指定周波数に合わせて、チューニングインジケータが点灯するように調節してください。

⑦FMアンテナ

FM放送やテレビ(1～3ch)を受信するとき、あるいは、ワイアレスマイクを受信するときは、FMアンテナを上へ伸ばして受信状態が最も良くなるように調節してください。アンテナを一杯引出しますと調整しやすくなります。

⑧〔テープ1〕カセット部

〔テープ1〕はステレオの録音及び再生ができます。録音するときは〔テープ1〕を使ってください。〔テープ2〕は再生専用です。

〔テープ1〕操作ボタン (⑨～⑮)

再生から早送りあるいは巻き戻し、早送りから巻き戻しなど、テープ走行モードを変えるときは一度〔□停止/取出し〕ボタンを押してください。

⑨〔ミュート〕録音ミュートボタン

録音中このボタンを押すとテープは走行しますが、ボタンを押している間、録音信号をカットします。

YMS自動選曲の際必要な無録音部分をワンタッチでつくることができます。(実際の操作は18ページをご覧ください。)

⑩〔●録音〕ボタン

このボタンを押すだけで録音ができます。

⑪〔▷再生〕ボタン

カセットテープの再生をします。

⑫〔◀◀巻き戻し/自動選曲〕ボタン

カセットテープを急速に巻き戻します。

〔▷再生〕ボタンと同時にこのボタンを押すと、自動選曲機能が働き、YMSの〔選曲〕ボタンで選曲されたところから再生を始めます。

⑬〔▶▶早送り/自動選曲〕ボタン

カセットテープを急速に早送りします。

〔▷再生〕ボタンと同時にこのボタンを押すと、自動選曲機能が働き、YMS〔選曲〕ボタンで選曲されたところから再生を始めます。

●⑫、⑬、⑮、⑯における自動選曲については「YMSの使いかた」(13ページ)を参照してください。

⑭〔□停止/取出し〕ボタン

カセットテープが走行しているときにこのボタンを押すとテープが止まり、もう一度押すとカセットふたが開きます。

⑮〔■一時停止〕ボタン

録音あるいは再生中にこのボタンを押すと右側のインジケータが点灯し、カセットテープが一時停止します。もう一度押すと再びテープが動きだします。

カラオケで唄う人へのスタンバイボタンとしても利用できます。(12ページ参照)

⑯〔テープ2〕カセット部

〔テープ2〕でカセットを再生するときに使います(再生専用)。

〔テープ2〕操作ボタン (⑰～⑲)

〔テープ1〕操作ボタン同様、テープの走行モードを変えるときは一度〔□停止/取出し〕ボタンを押してください。

⑰ [▷再生] ボタン

カセットテープの再生をします。

⑱ [◀◀巻戻し/自動選曲] ボタン

カセットテープを急速に巻き戻します。

[▷再生] ボタンと同時にこのボタンを押すと、[テープ1]と同様に自動選曲することができます。

⑲ [▷▷早送り/自動選局] ボタン

カセットテープを急速に早送りします。

[▷再生] ボタンと同時にこのボタンを押すと、[テープ1]と同様に自動選曲することができます。

⑳ [□停止/取出し] ボタン

カセットテープ走行中にこのボタンを押すとテープが止まり、もう一度押すとカセットふたが開きます。

㉑ [■一時停止] ボタン

再生中にこのボタンを押すと右側のインジケーターが点灯し、テープ走行が一時停止し、もう一度押すと再びテープが動きだします。⑲同様スタンバイボタンとしても利用できます。(12ページ参照)

㉒ [テープ3] 8トラックテープ部

8トラックテープを再生するときテープを挿入します。

[テープ3] 8トラックテープ操作ボタン (㉓~㉔)

㉓ [1曲リピート] ボタン

1曲だけをリピート再生するときに押します。押すとボタン上のランプが点灯します。リピート再生を止めるときはもう一度押します。リピート再生を解除しないかぎり同じ曲をリピート再生します。

㉔ [4曲/8曲] 切換ボタン

8トラックテープの4曲入りと8曲入りの切り換えを行ないます。4曲入りテープの場合(上のインジケーター点灯)は、音声多重コントロールができます。[バランス/音声多重] ツマミの項をご参照ください。

㉕ [A/Bチャンネル] 切換ボタン

8曲入り8トラックテープのAチャンネルとBチャンネルの切り換えを行ないます。

㉖ [選曲] ボタン

8トラックテープを再生するとき、お好みの曲を選びます。

㉗ [早送り] ボタン

このボタンを押すと早送りインジケーターが点灯し、8トラックテープは次の曲の頭まで早送りされます。

㉘ [スタート] ボタン

このボタンを押すとスタートインジケーターが点灯し、8トラックテープの演奏が始まります。

㉙ テープ1カウンター/リセットボタン

テープ1のテープの進行状態をカウンターで表示します。録音を始める前にリセットボタンを押して、カウンターを"000"にし、録音中に録音内容とカウンターの数字を記録しておく、曲の頭出しの目安になります。

㉚ 録音/ミュートインジケーター

録音中は上のインジケーターが点灯し、録音ミュートイング中は下のインジケーターも点灯します。

㉛ YMS(ヤマハミュージックサーチ)自動選曲システム

テープ1、テープ2では、今演奏されている曲の前後9曲までの飛越し選曲ができます。自動選曲中はテープ1、テープ2の右左のインジケーターが点灯し動作中を示します。テープ1、テープ2のどちらかが演奏中でも自動選曲は可能です。また、同時に選曲した場合は少しでも先に押した方が優先されます。

● YMS選曲インジケーター

飛越し選曲の頭出しで、1曲目~9曲目までの数字を表示します。[選曲] ボタンを1回押すごとに数字が1つずつ増えます。

● [選曲] ボタン

[テープ1]あるいは[テープ2]に入れたテープの飛越したい曲数をセットします。

● [リセット] ボタン

このボタンを押すと、選曲インジケーターの表示が"0"にリセットされます。

YMSの使いかたについては13ページをご覧ください。

㉜ レベルメーター

演奏時の出力レベルを表示します。中央より左がLチャンネル用で、右がRチャンネル用です。

㉝ [電源] スイッチ

スイッチを押すと[■入]電源が入り、上のインジケーターが点灯します。もう一度押すと[■切]電源が切れます。

③④ [ヘッドホン] ジャック

各ソースの音及びマイクの音がヘッドホンで聞けます。このときスピーカーの音は切れます。

注) ヘッドホンジャックにマイク等を接続しないようにしてください。マイクがこわれることがあります。

③⑤ [キーボード] 入力レベル/ジャック

下のジャックにキーボードを接続し、上のツマミで入力レベルを調節します。ツマミを右に回すほど入力が大きくなります。

③⑥ [マイク 1、2] 入力レベル/ジャック

ジャックにマイクを接続し、それぞれのツマミで入力レベルを調節します。ツマミを右に回すほど入力が大きくなります。

③⑦ [ワイアレス] マイクスイッチ/入力レベル

ワイアレスマイク(市販)を使用するとき、ツマミを右に回しスイッチを入れます。更に右に回すとワイアレスマイクの入力が大きくなります。

ワイアレスマイクを使用しないときは、左に回し切って、“切”にしておいてください。

③⑧ [マイク音質] 切換スイッチ

マイク 1、マイク 2 の音質を、ソフトとシャープの 2 段階に切り換えます。

③⑨ [グラフィックイコライザー] 調節ツマミ

テープの再生音質を調節します。100Hz, 400Hz, 1kHz, 4kHz, 10kHz を中心とした周波数のレベルを独立して調節できます。

④⑩ [テープスピード] 調節ツマミ

テープ 2 とテープ 3 (8トラック) の再生スピードを調節します。通常は“クリック”位置にしておきます。

テープ演奏の音程と自分の音域を合わせるときに使用します。詳しくは 16 ページの「マイクミキシング演奏をするには」をご覧ください。

④⑪ [ソース音量] 調節ツマミ

[ソース切換] ツマミ④②で選んだ各ソースの再生音量を調節します。

④⑫ [ソース切換] ツマミ

プログラムソースを選びます。演奏したいプログラムソースに合わせてセットしてください。

④⑬ [バランス/音声多重] 調節ツマミ

●上のスイッチが(⊕ステレオ)のとき……

下のツマミはバランス調節ツマミになります。左右のスピーカーの音量バランスを調節します。ツマミを右に回すと左のスピーカーの音が小さくなり、左に回すと右のスピーカーの音が小さくなります。

また、このポジションではプログラムソースはステレオで再生されます。

●上のスイッチが(⊖モノ/音声多重)のとき……

カセットテープあるいは 4 曲入り 8 トラックテープを再生する際、下のツマミを右(音声)に回すと演奏中の曲の音声(ボーカル)部が強調され、左(演奏)に回すと演奏(楽器)部が強調されます。用途に合わせて調節してください。

また、このポジションではプログラムソースはモノラルで再生されます。

④⑭ [主音量] 調節ツマミ

マイクの音量、カラオケなど演奏の音量等を調節したあとに、全体の音量を調節します。右に回すほど音量が増えます。

④⑮ [エコー] 調節ツマミ

[マイク 1、2] に接続したマイクの音にエコーをかけることができます。エコー時間とエコー量を任意に調節できます。

■リヤパネル側の機能

④⑯ [中央スピーカー] スイッチ

別売中央スピーカー(SP-33C)をご使用になるときは、スイッチを入(左)にしてください。(出荷時には“入”になっています。)

別売サイドスピーカー(SP-33S)のみをご使用になる場合(中央スピーカーをご使用にならない場合)は、スイッチを必ず切(右)にしてください。スイッチが入(左)のままですと、音声(マイクの音)が出ませんのでご注意ください。なお、このスイッチを切り換えるときは、[電源]スイッチを“切”にして切り換えてください。

④⑰ [楽器/有線] 切換スイッチ

ライン入力端子に楽器等を接続して演奏する場合は、スイッチを左[楽器]にし、有線放送アダプターを接続して有線放送を聞く場合は右[有線]にします。

スイッチが左[楽器]のときは音はモノラルに、右[有線]のときはステレオになりますので、有線放送がモノラルのときにはスイッチを左[楽器]にしてご使用ください。

④⑧ [ライン出力] 端子

外部アンプの“AUX”端子等とこの端子を接続すると、大会場などで更に迫力ある音で楽しめます。

また、外部デッキの“LINE IN”端子等と接続すると、外部デッキへのダビングができます。

④⑨、④⑩を正しく接続してください。

④⑨ [ライン入力] 端子

楽器や有線放送アダプター等を接続することができます。

また、外部デッキの“LINE OUT”端子と接続すると、外部デッキからのダビングができるほか、外部デッキの再生ができます。

この場合は〔楽器／有線〕切換スイッチは“有線”側にします。

同じく④⑨、④⑩を正しく接続してください。

⑤⑩ [フォノ／アース] 端子

MM型カートリッジの付いたレコードプレーヤーを接続します。④⑨、④⑩を確認して接続してください。更に、レコードプレーヤーのアース線をアース端子に接続してください。

⑤① [中央スピーカー：音声] 端子

別売中央スピーカー (SP-33C) を接続します。+(赤)、-(黒)を正しく接続してください。ご使用になるときは、一度〔電源〕スイッチを“切”にしてから〔中央スピーカー〕スイッチを入(左)にしてご使用ください。

このスピーカー端子は音声(ボーカル)を主体に再生しますので、定位の明確な迫力あるボーカルを楽しむことができます。

中央スピーカー (SP-33C) の取扱説明書もご参照ください。

⑤②左右スピーカー端子

別売スピーカー (SP-33S等) を接続します。④⑪チャンネル、④⑫チャンネル、更に、極性(+、-)を正しく接続してください。広がり、奥行きのあるステレオ再生が楽しめます。

別売センタースピーカー (SP-33C) のみをご使用になる場合は、このスピーカー端子に接続しますが、この場合は〔ステレオ／モノ〕切換スイッチをモノにしてご使用ください。

(SP-33S、SP-33C) スピーカーの取扱説明書もご参照ください。

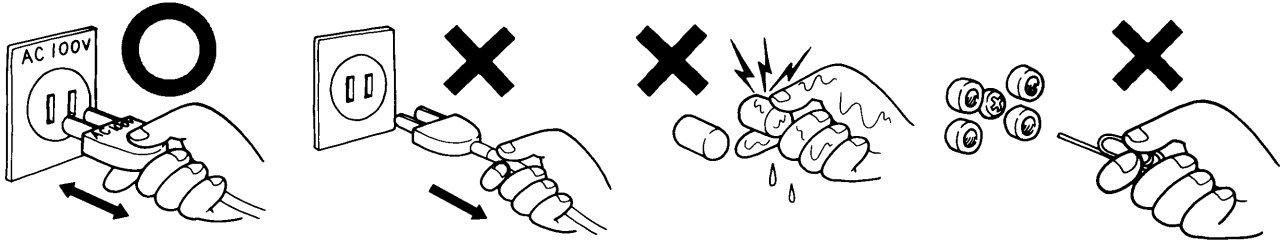
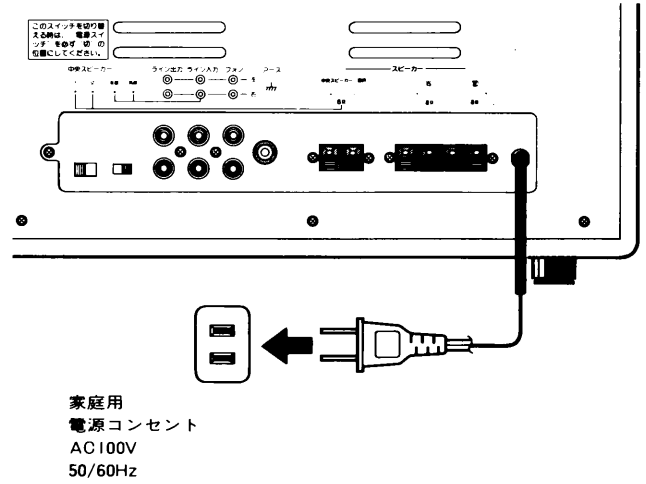
電源について/メンテナンス

■電源について

本機は、ご家庭の電灯線で使用できます。

■次のことは必ず守ってください。

1. 電源コードは、必ずAC100Vのコンセントに差し込んでください。
2. 電源コードをコンセントから抜くときは、必ず電源プラグを持って抜いてください。
3. ぬれた手でセットをいじらないでください。感電する危険があります。
4. 裏ふたの穴や、ジャックの中などに金属片（ヘアピンなど）を差し込まないでください。感電することがあり危険です。
5. 使い終わりましたら、テープデッキ部の操作ボタンを全部もとに戻し、8トラックテープを抜き、〔電源〕スイッチを押して（■切）に戻し、電源を切ってから電源コードを抜いてください。



■メンテナンス

■ヘッドのお手入れ

ヘッド、キャプスタン、ピンチローラー、センサーなどの汚れは、音質が悪くなったり、録音ができないなどの原因になりますので、定期的に清掃を行なってください。

1. 必ず電源を切ってください。
2. 市販の綿棒やクリーニング液、またはクリーニングテープなどをご使用になって清掃を行なってください。
3. クリーニング液などは、十分乾燥させてから機器をご使用ください。

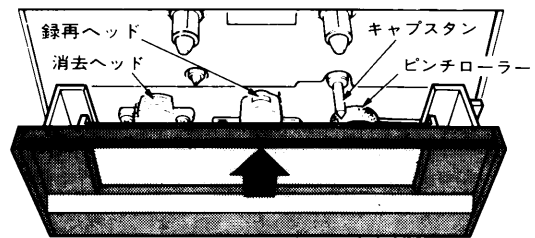
■ヘッドの消磁

カセットデッキを長時間ご使用になりますと、ヘッドが磁化されて雑音が入ったり、音質が悪くなったりしてきますので、定期的（月に一度くらい）に市販の消磁器で、ヘッドの消磁を行なってください。また、消磁の際は、各消磁器の説明書を充分にご参照願います。

■前面パネルやキャビネットのお手入れ

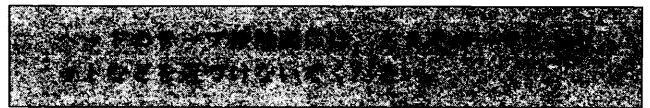
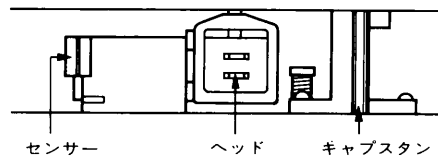
前面パネルやキャビネットの汚れは、柔らかい布でカラ拭きして取り除いてください。汚れのひどいときは、中性洗剤を水でうすめてご使用ください。（シンナー、アルコール、化学ぞうきんなどはご使用にならないでください。）

●カセットデッキ部



カセットホルダーのふたをはずします。（矢印）

●8トラックデッキ部



カセットテープと8トラックテープについて

◆市販のカセットテープには多種多様の製品がありますが、その構造については規格が統一されていますので、各メーカーのものが共通に使用できます。なお、本機にはCrO₂、Metalテープに対応する機能がありませんので、ノーマル(LH)テープのみをご使用ください。

■カセットテープの録音時間による分類

カセットテープの型名は、両面往復の時間を“分”単位で表示してあります。

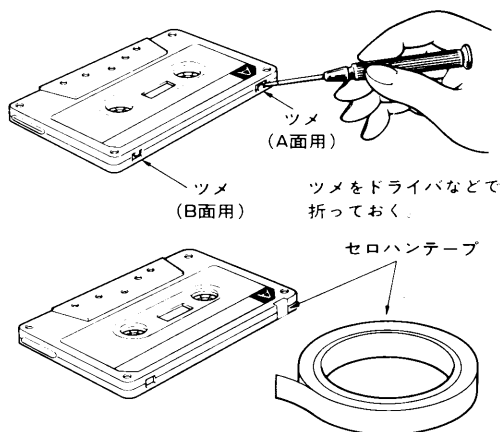
種類	録音再生時間		テープの長さ(m)
	片道(分)	往復(分)	
C-30	15	30	45
C-46(C-45)	23	46	68
C-60	30	60	90
C-90	45	90	135

●C-120カセットテープは非常に薄いため、変形したり、伸びたりして故障の原因となるおそれがありますので、ご使用は避けてください。

■カセットテープの録音内容の保存について

カセットテープには消去防止用の穴がありますので、録音後大切な録音を誤って消さないように、この穴についているツメを取り去ってください。ツメは、A面用とB面用とそれぞれについていますので、必要な録音の面のツメだけを取り除いて、不必要な録音面のツメは再度録音できるように残しておいてください。

誤ってツメを折ったとき、または再び録音したいときはセロハンテープなどで、穴をふさいでください。

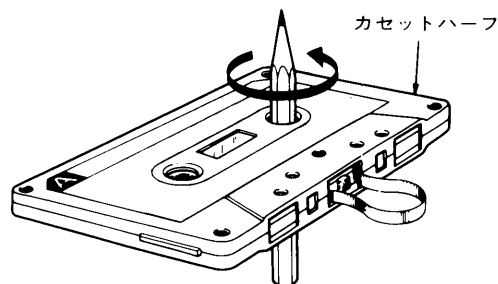


テープに録音されたものは、個人として楽しむほかは著作権法上、権利者に無断で使用できません。

■テープのたるみを直す

テープがとび出したり、たるんだままご使用になりますと、キャプスタンやピンチローラーにテープがからみついたりする原因となります。

●テープにたるみがあるときは、鉛筆などをカセットハウスのリール軸に差し込んで巻き取ってください。



■8トラックテープの演奏終了後は

8トラックテープは演奏終了後、必ず挿入口から抜き取っておいてください。

●8トラックテープをセットしたまま長時間放置しますと、キャプスタン、ヘッド、センサーなどの故障の原因となります。

■使用されるカセットテープや8トラックテープについて

次のようなカセットテープや8トラックテープは本機では正常な機能を果たしませんのでご使用にならないでください。

- ◇使用中に異常音の出るもの。
- ◇テープに「しわ」ができたり、変形しているもの。
- ◇メタルテープやクロームテープなどのカセットテープ。
- ◇C-120カセットテープ。

■カセットテープ、8トラックテープの保管のしかた

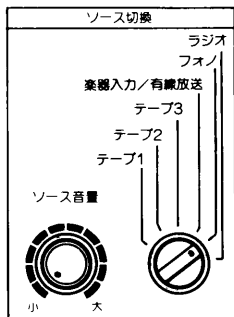
テープのたるみを防ぐためにストッパーをつけるか、市販のケースに入れて、次のような所を避けて保管してください。

- ◇直射日光の当たる所やストーブのそばなど温度の高い所。
- ◇ホコリや湿気の多い所。
- ◇スピーカーやテレビの近くなど磁気の影響を受けやすい所。(磁気は録音内容を消去する恐れがあります。)

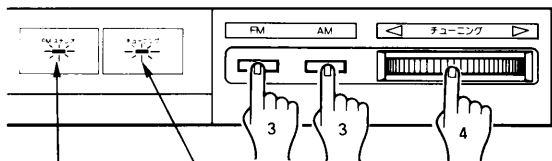
演奏（操作）のしかた

■チューナーの聴きかた

1. [電源] スイッチを押して電源を入れます。
2. [ソース切換] ツマミをラジオにセットします。

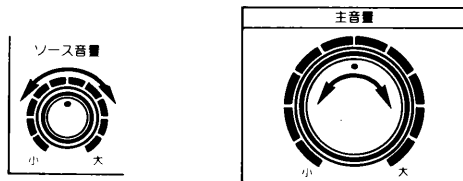


3. バンドセクターで、FM放送かAM放送か、受信したい放送を選びます。
4. チューニングつまみで、放送局を選局します。このとき、チューニングインジケータが点灯するように、チューニングつまみを調節してください。

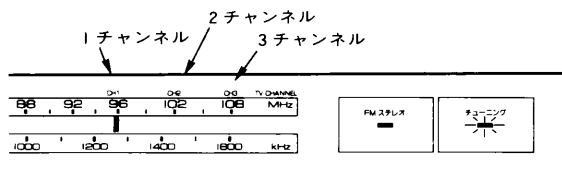


ステレオ放送の場合、点灯します。(FM放送のみ)
このインジケータが点灯するようにチューニングします。

5. [ソース音量] 調節つまみと、[主音量] 調節つまみで音量を調節します。



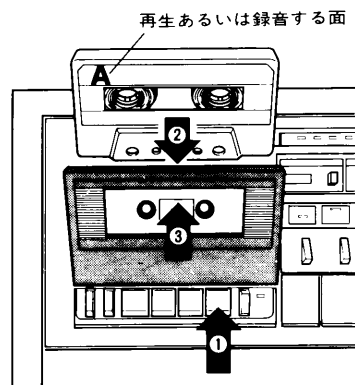
- 本機のチューナーでは、テレビの1～3チャンネルの音声を受信できます。チューニングつまみを調節して、ダイヤル指針をTV CHANNELに合わせてください。



- FM放送の受信状態が悪い場合は、[バランス/音声多重] 調節つまみをモノにしますと放送はモノラルになりますが、受信状態は良くなる場合があります。
- FM放送やテレビ(1,~3ch)の受信状態が悪い場合は、FMアンテナを上には伸ばして、受信状態が良くなるように調節してください。
- 本機では、FM放送でワイアレスマイクを受信して使用することができます。くわしい使いかたは17ページをご覧ください。

■カセットテープの入れかた

1. [□停止/取出し] ボタンを押して、カセットホルダーを開けてください。①
2. テープ面を下にし、演奏または録音したい面を手前にして、カセットテープを挿入してください。②
3. カセットホルダー上部中央をロック音がするまで押し込んで完全に閉めてください。③



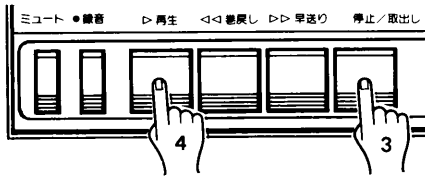
演奏（操作）のしかた

■カセットテープを聞くには

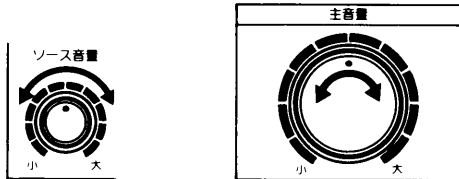
1. [電源] スイッチを押して電源を入れます。

〔テープ1〕
で聞くには

2. [ソース切換] ツマミをテープ1にセットしてください。
3. [停止/取出し] ボタンを押してカセットふたをあけ、テープを入れます。
4. [再生] ボタンを押します。



5. [ソース音量] 調節つまみと、[主音量] 調節つまみで音量を調節します。



6. グラフィックイコライザーで音質を調節します。

● [一時停止] ボタンの使いかた

再生中に（録音中も）このボタンを押すと、一時停止してスタンバイの状態になります。もう一度押すと、録音あるいは再生状態に戻ります。

また、カラオケスタンバイボタンとしても利用できます。カラオケテープの演奏する個所を準備しておき、唄う人の準備待ちの際など、このボタンと [再生] ボタンを押しておき、準備ができてからこのボタンを押して一時停止を解除すると、早いカラオケスタートができます。

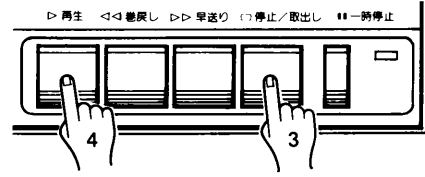
● [巻戻し] ボタンのもう一つの使いかた

[再生] ボタンが押されているときにこのボタンを押すと、YMS選曲インジケータが「0」のときは「1」になり、曲の途中の場合は現在再生中の曲の頭までテープが巻き戻され、そこから再生状態になります。

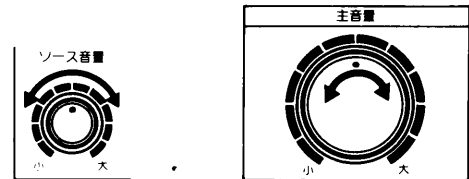
曲間の場合は、一曲前の曲の頭から再生状態になります。

〔テープ2〕
で聞くには

2. [ソース切換] ツマミをテープ2にセットしてください。
3. [停止/取出し] ボタンを押してカセットふたをあけ、テープを入れます。
4. [再生] ボタンを押します。



5. [ソース音量] 調節つまみと、[主音量] 調節つまみで音量を調節します。



6. グラフィックイコライザーで音質を調節します。

7. [テープスピード] ツマミで再生スピードを調節することができます。

● [早送り] ボタンの使いかた

[再生] ボタンが押されているときにこのボタンを押すと、YMS選曲インジケータが「0」のときは「1」になり、次の曲の頭までテープが早送りされ、そこから再生状態になります。

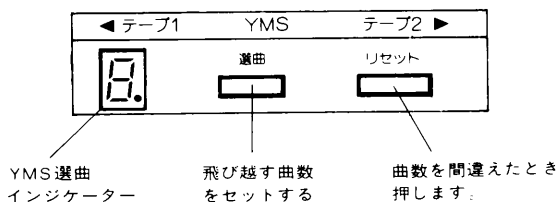
● フルASO (Auto Shut Off) について

テープの自動停止装置です。テープがいっぱい巻き取られると、自動的に走行が止まります。録音・再生・早送り・巻戻しのいずれの場合も動作します。ただし、電源は切れませんので、電源を切るときは [電源] スイッチを (■切) にしてください。

■ YMS(ヤマハミュージックサーチ……自動選曲)の使いかた

テープに録音されている各曲の曲間を検出し、曲の頭から自動的に演奏を始める機能です。現在演奏中の曲から9曲先、または8曲手前までの飛び越し選曲ができます。(テープ1、テープ2ともにYMSによる自動選曲が可能です。)

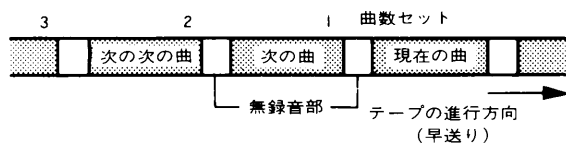
1. [選曲] ボタンを押し、飛び越す曲数をセットします。YMS 選曲インジケータに飛び越す曲数が表示されます。
 - 次の曲または現在の曲の頭から演奏する場合 YMS インジケータが“0”のときは、[選曲] ボタンを押す必要はありません。直接 [▶▶ 再生] ボタンと [▶▶▶ 早送り] ボタンまたは [◀◀ 巻戻し] ボタンを押すと、インジケータの曲数が“1”になり、そこから演奏を始めます。(現在曲の途中の場合)
2. 曲数セットを間違えたときは、[リセット] ボタンを押し、セットしなおしてください。
3. 現在再生中の曲より先の曲を演奏する場合は、再生状態のまま [▶▶▶ 早送り] ボタンを、前の曲を演奏する場合は [◀◀ 巻戻し] ボタンを押します。
4. テープは、早送りあるいは巻戻しされ、インジケータの曲数が曲間を検出するごとに減っていき、“0”になったところから演奏が始まります。



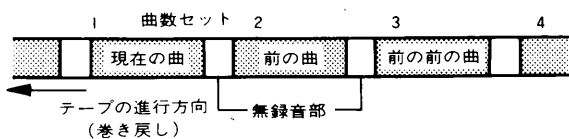
曲数セットのしかた

自動選曲は曲と曲との間の無録音部分を検出して働きますので、次の例にならって曲数をセットしてください。

例、先の曲を聞くととき……[▶▶▶ 再生] ボタンと [▶▶▶▶ 早送り] ボタン



例、前の曲を聞くととき……[▶▶▶▶ 再生] ボタンと [◀◀ 巻戻し] ボタン

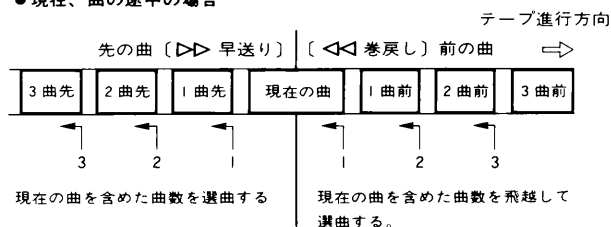


あとは1曲ふえるごとにプログラムボタンを押してください。

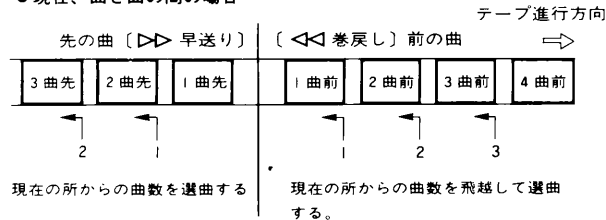
- 飛び越す曲数のセットは、前の曲を飛び越す場合と先の曲を飛び越す場合とは異なります。前の曲を飛び越す場合は、セットした曲数より1曲少なくなります。これは、テープの再生走行方向と飛び越し方向が異なるためです。

また、現在曲の途中の場合と曲間(曲と曲の間)の場合では、実際に飛び越す曲数が異なります。曲の途中の場合、曲間の場合よりも1曲少なくなります。これは、曲間を検出するため現在演奏中の曲を1曲と数えるためです。

● 現在、曲の途中の場合



● 現在、曲と曲の間の場合

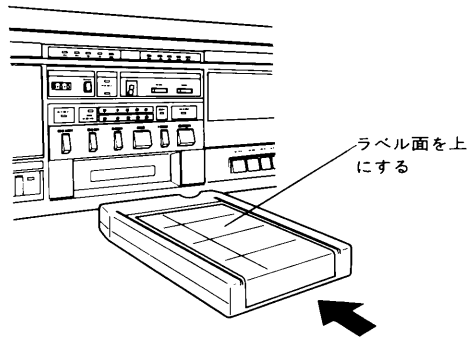
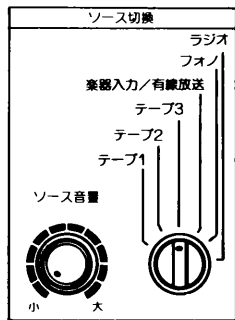


◆ YMSは曲間の無録音部分を検出し選曲を行ないますので、次のようなテープでは正確な選曲ができません。

- 無録音部分が4秒以下の短いテープ
 - 無録音部分に雑音などが録音されているテープ
 - 曲の途中で演奏が途切れる部分のあるテープ
 - 曲の途中で録音レベルが非常に低い部分のあるテープ
 - 会話の録音など音声が続いて動かないテープ
- また、[▶▶▶▶ 再生] ボタンを押さずに誤って [▶▶▶▶ 早送り] ボタン、または [◀◀ 巻戻し] ボタンを押したときも自動選曲はできません。

■ 8トラックテープを聞くには

1. [電源] スイッチを押して電源を入れます。
2. [ソース切換] ツマミをテープ3にセットします。
3. 8トラックテープを、カートリッジ挿入口にしっかり差し込みます。
 - ラベル面を上にして、テープ挿入口に差し込みます。

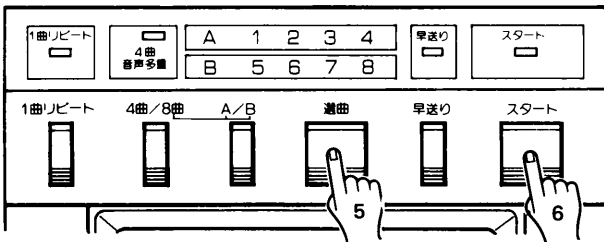


4. 8トラックテープが、4曲入りか8曲入りかを確認し、[4曲/8曲] 切換ボタンで切り換えます。

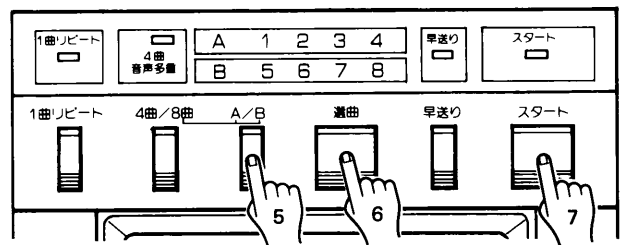
4曲入り
テープの場合

8曲入り
テープの場合

5. [選曲]ボタンで聞きたい曲のプログラムにセットします。
6. [スタート] ボタンを押します。



5. [A/Bチャンネル] 切換ボタンで、AチャンネルかBチャンネルかに切り換えます。
6. [選曲]ボタンで聞きたい曲のプログラムにセットします。
7. [スタート] ボタンを押します。



7. [ソース音量] 調節つまみと、[主音量] 調節つまみで音量を調節します。
8. グラフィックイコライザーで音質を調節します。
9. [テープスピード] ツマミで再生スピードの調節ができます。

8. [ソース音量] 調節つまみと、[主音量] 調節つまみで音量を調節します。
9. グラフィックイコライザーで音質を調節します。
10. [テープスピード] ツマミで再生スピードが調節できません。

- 1曲が終わるとテープは自動的に止まり、[スタート] インジケータが消えます。(ただし、電源は入ったままです。)
- テープを曲の途中で止めるときは、8トラックテープを本体から抜いてください。
- 本機では、4曲入り、または8曲入りのどちらの8トラックテープでも使用できます。

- [早送り] ボタンを押すと [早送り] インジケータが点灯し、曲の初めまで早送りされプログラムの頭出しができます。頭出しが完了しますと自動的に停止し、[早送り] インジケータが消えます。
- 早送り中に [スタート] ボタンを押すと曲の途中で演奏を始めます。
- 8トラックテープを本体から抜くときは、本体をささえてテープを手前に引いてください。

■グラフィックイコライザーの使いかた

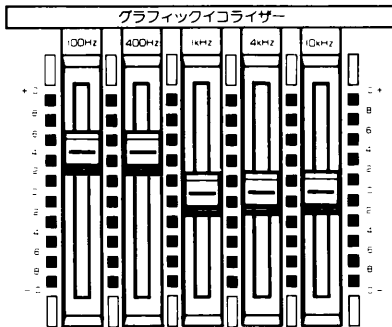
100Hz、400Hz、1kHz、4kHz、10kHzを中心にそのレベルを強調あるいは減衰して、音色をかえたり好みの音にしたりすることができます。ツマミを+側(上)にすると強調され、-側(下)にすると減衰します。0位置で一般的な音色になります。

[ソース切換] ツマミで選ばれたプログラムソースはすべて音色を変えることができますが、マイクの音色は変えることはできません。

■実際の使用例

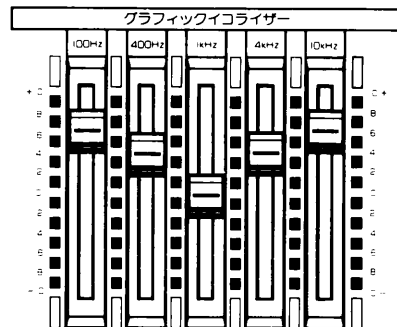
1. 演歌を楽しむ場合

図のように100Hz、400Hzを少しずつ上げ、その他は“0”位置にセットします。



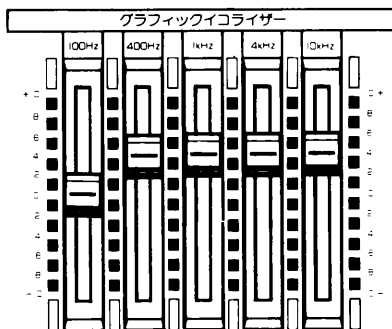
3. ディスコミュージックを楽しむ場合

図のように100Hz、400Hz、4kHz、10kHzを少しずつ上げます。迫力が増し、はぎれの良いディスコの雰開気になります。



2. ニューミュージックを楽しむ場合

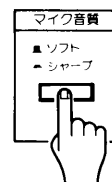
図のように400Hz、1kHz、4kHz、10kHzを少しずつ上げ、その他は“0”にセットします。



上記のほかにも、お好みに合わせて、各ツマミを自由に調節してみてください。

■マイク音質切換スイッチについて

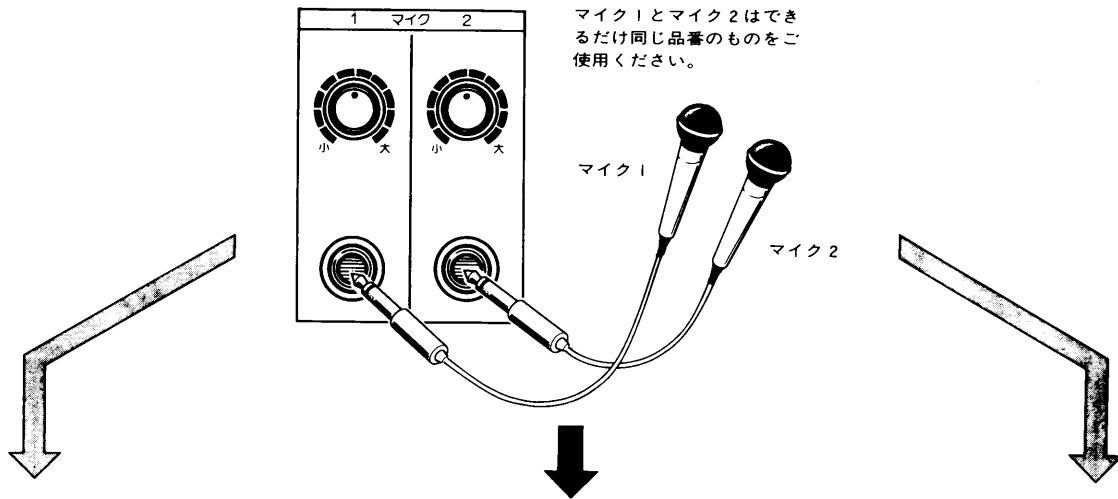
マイク1、2の音質をシャープあるいはソフトに切り換えることができます。お唄になる人の声質や、曲によって選んでください。例えば、ハスキーな声の人であれば“ソフト”に、ニューミュージックであれば“シャープ”にと、切り換えてみてください。



マイク1とマイク2の音質が選べます。

■マイクミキシング（カラオケ）演奏するには

1. [電源] スイッチを押して電源を入れます。
2. [マイク] ジャックにマイクを差し込みます。（同時に2本使用できます。）
3. [ソース切換] ツマミでミキシングしたいソースを選び、[ソース音量] ツマミでソースの音量を調節します。



4. カセットテープ（1、2）

12ページの「カセットテープを聞くには」に従って、カセットテープを演奏状態にします。

4. 8トラックテープ

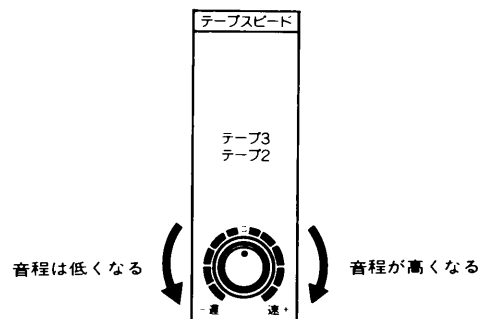
14ページの「8トラックテープを聞くには」に従って、8トラックテープを演奏状態にします。

4. キーボード

20ページの「キーボード演奏のしかた」に従って、キーボードを演奏します。

5. [マイク入力レベル] ツマミでマイクの音量を調節します。
 6. [マイク音質] 切換ツマミでお好みの音質を選びます。
 7. [エコー] ツマミで、エコー時間及びエコー量を調節します。
 8. [主音量] ツマミで全体のミキシング再生音量を調節してください。
 9. グラフィックイコライザーでお好みの音質にすることができます。
- 上記の4項でチューナーを受信すると、チューナーの演奏に合わせてマイクミキシングもできます。

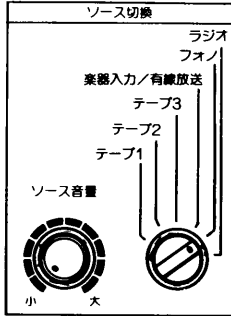
- テープの演奏している音程が、自分の音域に合わず歌いにくいときは、[テープスピード] 調節ツマミで合わせてください。中央から右に回すとスピードが速く（音程が高く）なり、左に回すと遅く（音程は低く）なります。（テープ2、テープ3について有効です。）
- マイク使用中に“ピー”という音がでてハウリングを生じるときは、マイクの音量を小さくするか、マイクとスピーカーを離してください。
- マイク音量とテープ音量は別々に調節できますので、それぞれ好みの音量に合わせてください。（ミキシングバランス）



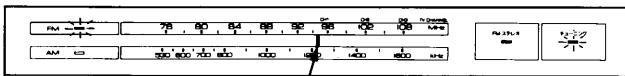
■ ワイヤレスマイクの使いかた

本機では、FM ワイヤレスマイクを使用することができます。ワイヤレスマイクは市販のものをご使用ください。

1. [電源] スイッチを押して電源を入れます。
2. [ソース切換] ツマミをラジオにセットします。



3. バンドセクターをFM放送にセットします。
4. チューニングつまみで、FM放送の周波数をワイヤレスマイクの指定周波数に合わせます。



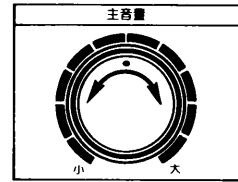
ワイヤレスマイクの指定周波数に合わせます。
5ページ⑥チューニングつまみの項をご参照ください。

5. [ワイヤレス] マイクスイッチのつまみを右に回してスイッチを入れ、適当なレベルにセットします。



※ワイヤレスマイクを使用しないときは、「切」にしておきます。

6. [ソース音量] 調節つまみ、および [主音量] 調節つまみで、ワイヤレスマイクの音量を調節してください。



- ワイヤレスマイクの受信状態が悪い場合は、FMアンテナを上には伸ばして、受信状態が良くなるように調節してください。
- ワイヤレスマイクを使用しないときは、[ワイヤレス] マイクスイッチは「切」にしておいてください。

■ ミキシング録音のしかた

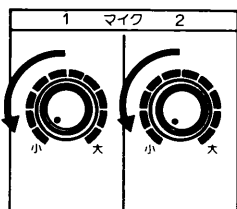
■ 録音上のご注意

- 録音はテープ1側で行ないます。(8トラックテープ、及びテープ2での録音はできません。)
- 8トラックテープの演奏だけを録音するときは、テープ2及びマイクを抜いてください。
- マイクの音だけを録音するときは、テープ2及び8トラックテープを抜いてください。
- キーボードジャックに接続したキーボードとマイクミキシングした音を録音するときは、テープ2及び8トラックテープを抜いてください。
- キーボードの音だけを録音するときは、テープ2及び8トラックテープ、マイクを抜いてください。
- 録音するとき、カセットテープの誤消去防止用「ツメ」が折りとられていると、[●録音] ボタンが押せません。必ず「ツメ」の有無を確認してください。

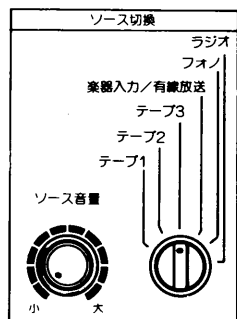
- 録音される音は、[マイク音量] 調節つまみ、[テープスピード] ツマミ、[エコー] 調節つまみの操作によって変化しますので、2～3回試し録音をしてから確実に録音してください。
- 適正録音をするには、各入力レベルつまみ及びソース音量つまみをセンター位置(適正レベル)にして、録音してください。なお、各入力レベルつまみ及びソース音量つまみを「小」の位置にすると録音できません。
- 録音中に電源を切ると、「キューッ」という音が録音されることがあります。電源を切るときは、テープを止めてから行なってください。
- マイクミキシングの音、またはマイクの音を録音するときは、ハウリングが起きないようにご注意ください。

■マイクミキシング録音のしかた

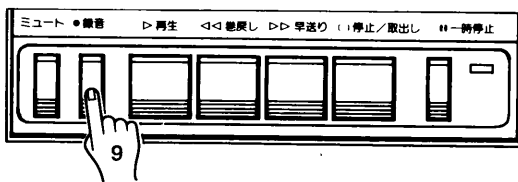
1. 急に大きな音が出ないように、あらかじめ〔マイク音量〕つまみとソース音量つまみを「小」の位置におきます。



2. マイクを接続します。
3. 〔電源〕スイッチを押して電源を入れます。
4. 〔テープ1〕の〔□停止/取出し〕ボタンを押してカセットふたをあげ、ブランクテープをセットします。
5. 〔ソース切換〕つまみをミキシングソース（テープ2、テープ3、楽器入力/有線放送、ラジオ、フォノ）に合わせます。



6. 12ページの“カセットテープを聞くには”の〔テープ2〕または、14ページの“8トラックテープを聞くには”にしたがってミキシングするテープ等を動作状態にします。
7. 〔マイク音量〕調節つまみでマイクの音量を、〔ソース音量〕つまみでミキシングソースの音量を、〔エコー〕調節つまみでエコーの量と時間を調節します。
8. 〔マイク音質〕切換つまみでマイク音質を調節します。
9. 〔テープ1〕の〔●録音〕ボタンを押すとミキシング録音ができます。



10. マイクミキシング録音を終えるときは、〔□停止/取出し〕ボタンを押してテープの走行を止めてください。

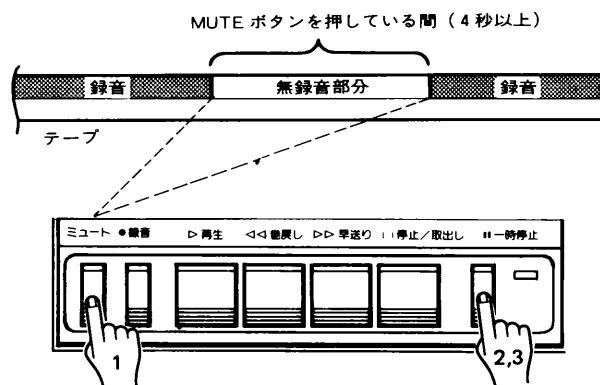
※レコードとマイクのミキシング、有線放送とマイクのミキシング、さらにミキシング録音も前記の説明と同様の方法で行なえます。

■カセットテープに無録音部分(曲間)を作るときは

録音中に〔ミュート〕ボタンを押すと、押している間、録音信号をカットし、ワンタッチで無録音部分をつくることができます。

自動選曲機能で正確な選曲を行なうためには、曲間の無録音部分は4秒以上作ってください。

1. 録音が一曲終わりましたら〔ミュート〕ボタンを4秒くらい押し続けます。
2. 4秒くらいたちましたら、〔一時停止〕ボタンを押します。（〔ミュート〕ボタンは離してもかまいません。）
3. 次の曲が始まる前に〔一時停止〕ボタンを解除しますと、再び録音が始まります。



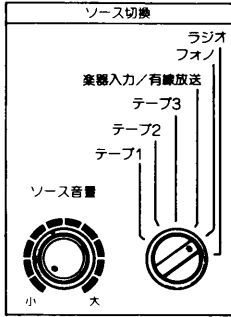
■消去するときは

録音されたカセットテープに新しく録音しないで消去するときは、8トラックテープとそれぞれの入力ジャックに接続した機器の接続コードを抜いて次のようにしてください。〔テープ2〕も停止状態にしておきます。

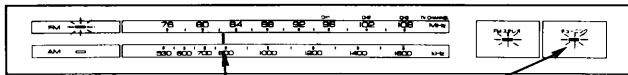
1. 各入力レベルつまみ及びソース音量つまみを「小」の位置にします。
2. 〔●録音〕ボタンを押して、録音状態にします。消去を途中で終わるときは、〔□停止/取出し〕ボタンを押してください。

■チューナーの録音(エアチェック)のしかた

1. [電源] スイッチを押して電源を入れます。
2. [テープ1] の [□停止/取出し] ボタンを押してカセットふたをあげ、ブランクテープをセットします。
3. [ソース切換] ツマミをラジオに合わせます。

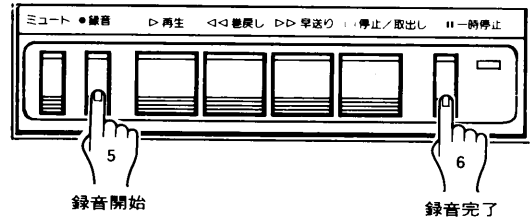


4. 11ページの“チューナーの聴きかた”にしたがって、録音したい放送局を放送受信状態にします。



チューニングインジケーターが点灯するように、針を周波数に合わせます。

5. [テープ1] の [●録音] ボタンを押すと録音が始まります。
6. 録音を終わるときは、[□停止/取出し] ボタンを押してテープの走行を止めてください。



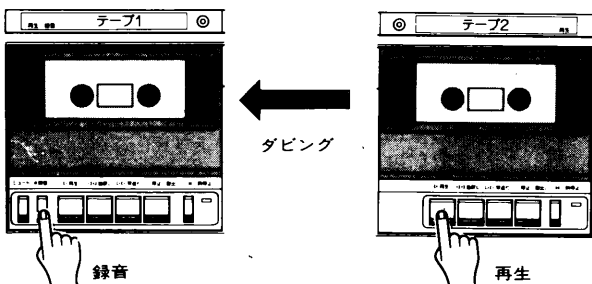
※チューナーとのマイクミキシング録音も前記の説明と同様の方法でできます。

■ダビングのしかた

本機は [テープ2] から [テープ1] へ、あるいは [テープ3] から [テープ1] へダビングすることができます。

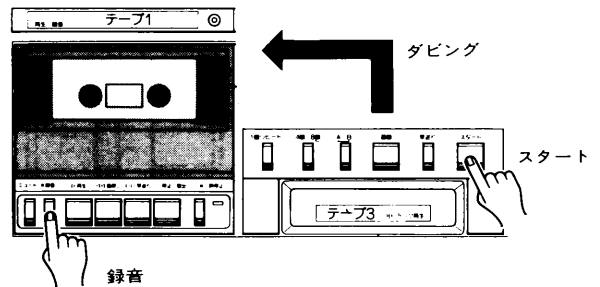
●[テープ2] から [テープ1] へのダビング

1. [テープ1] にブランクテープをセットします。
2. [ソース切換] ツマミを“テープ2”にセットし、ソース音量を調節します。
3. [テープ2] に録音済みのテープをセットし、再生状態にします。
4. [テープ1] を録音状態にするとダビングできます。



●[テープ3] から [テープ1] へのダビング

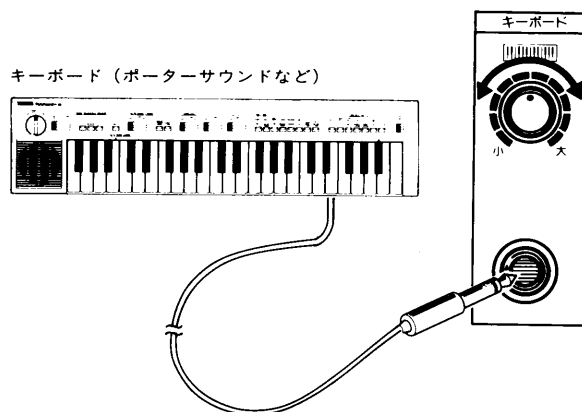
1. [テープ1] にブランクテープをセットします。
2. [ソース切換] ツマミを“テープ3”にセットし、ソース音量を調節します。
3. [テープ3] に8トラックテープを挿入し、[スタート] ボタンを押して演奏を始めます。
4. [テープ1] を録音状態にするとダビングできます。



■ キーボード演奏のしかた

ポーターサウンドなどキーボードを使用するときは、〔キーボード〕 ジャックに接続します。

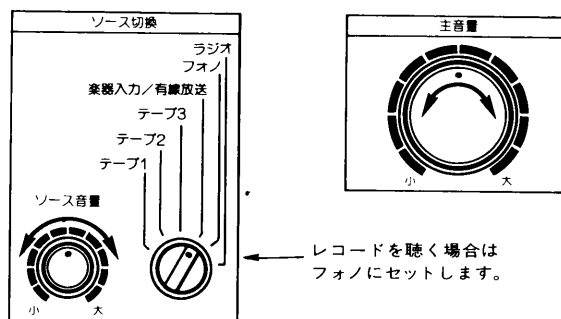
1. 〔電源〕 スイッチを押して電源を入れます。
 2. キーボードを〔キーボードジャック〕に接続します。
 3. キーボードを演奏し、〔キーボード入力レベル〕 ツマミでキーボードの音量を調節します。音量は〔キーボード入力レベル〕 ツマミで、マイク音量やテープ音量とは別々に調節できます。
 4. 〔主音量〕 ツマミで全体の再生音量を調節します。
 5. グラフィックイコライザーにより、音色をかえることもできます。
- キーボードを使用しないときは、〔キーボード入力レベル〕 ツマミは「小」の位置にしておいてください。



■ レコード/有線放送の聴きかた

本機では、レコードプレーヤー及び有線放送アダプターを接続すると、レコード演奏や有線放送を聞くことができます。

1. 〔電源〕 スイッチを入れます。
2. プレーヤー及び有線放送アダプターを接続します。
(接続方法は、3ページを参照してください。)
3. 〔ソース切換〕 ツマミをフォノ、または楽器入力/有線放送にセットします。
4. 〔ソース音量〕 ツマミでレコードや有線放送の音量を調節します。
5. 〔主音量〕 ツマミで全体の音量を調節します。



参考仕様

■参考仕様

■カセットデッキ部

- テープ1(録音/再生、ステレオ)
- テープ2(再生専用、ステレオ)
 - ワウ・フラッター……………0.06% WRMS
 - テープスピード……………4.8cm/sec
 - SN比……………55dB
 - 早送り、巻戻し時間……………110sec(C-60使用時)
 - 周波数特性……………50Hz~15kHz
 - ヘッド 録音/再生(テープ2共)……………ハードパーマロイ
 - 消去……………フェライト
 - 歪率……………1%
 - スピード可変範囲(テープ2のみ)……………±10%
- テープ3(8トラック、再生)
 - ワウ・フラッター……………1.2% WRMS
 - テープ・スピード……………9.5cm/sec
 - スピード可変範囲……………±10%
 - SN比……………55dB
 - 早送り……………4倍速
 - 周波数特性……………50Hz~12kHz
 - 再生ヘッド……………ハードパーマロイ
 - 歪率……………2%

■マイク部(ワイヤード、2本独立VR付)

- 入力感度(10k Ω)……………5mV
- 周波数特性……………100Hz~8kHz
- SN比……………65dB
- ワイアレス……………SW付VR

■エコー部(エコー時間、エコー量VR付)

- 効果帯域……………100Hz~2.5kHz
- 遅延時間……………1~5sec

■パワーアンプ部

- 実用最大出力(8 Ω 1kHz 10%歪)……………40W+40W+40W
- 1W出力時の歪率……………0.05%

■トーンコントロール部

- グラフィックイコライザー
 - (100Hz, 400Hz, 1kHz, 4kHz, 10kHz)……………±10dB
- マイク音質……………シャープ/ソフト切換

■キーボード端子部

- SN比……………65dB
- 周波数特性……………20Hz~20kHz
- 入力感度(50k Ω)……………150mV

■ヘッドホン端子部

- 出力電圧(8 Ω)……………180mV

■外部入力部

- 楽器入力感度(切換SW付)……………150mV
- 有線入力感度……………150mV
- SN比……………65dB
- 周波数特性……………20Hz~20kHz

■フォノ端子部

- 入力感度(1kHz)……………2.5mV

■ラジオ部

- FM……………76MHz~108MHz
 - 実用感度(30dB S/N)……………2.5 μ V
 - S/N比……………6.5dB
 - イメージ妨害比……………50dB
- AM……………525kHz~1620kHz
 - 実用感度(20dB S/N)……………250 μ V
 - S/N比……………45dB
 - イメージ妨害比……………50dB

■アンテナ部

- FM……………埋込形ロッドアンテナ
- AM……………内蔵形バーアンテナ

■付属機能

- ALC(自動録音レベル調整)
- YMS(ヤマハミュージックサーチ)による前後9曲飛越選曲
- 8トラックテープ……………1曲リピート再生4倍速頭出し
- LEDパワーレベルメーター

■総合

- 定格電源電圧/消費電力……………AC100V/90W
- 外形寸法(W×H×D)……………518×388×268mm
- 重量……………15.5kg

※仕様及び外観は改良のため予告なく変更されることがあります。

故障と思われるときには

ご使用中なか異常が認められました場合は、下記の事項をご確認ください。それでも直らない場合は、電源プラグを抜いて、お買い上げ店か最寄りの弊社電音サービス拠点までご連絡ください。

故障現象	原因	処置
電源プラグを差し込んだが電源が入らない。	<ul style="list-style-type: none"> ●電源プラグの差し込みが不完全。 ●テープが巻き終わっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ●電源プラグをコンセントにしっかり差し込みなおしてください。 ●テープを巻き戻すか、カセットテープを裏返して使用します。
カセットテープを入れたが再生しない。	<ul style="list-style-type: none"> ●カセットテープが入っていない。 ●カセットテープの後部ツメが折れている。 	<ul style="list-style-type: none"> ●カセットテープを入れてください。 ●カセットテープを交換するか、ツメの部分をゼロハンテープなどでカバーしてください。
再生音が小さい。	<ul style="list-style-type: none"> ●テープがいたんでいる。(片伸びなど変形etc.) ●録音済テープ自体にひずみがある。 	<ul style="list-style-type: none"> ●新品テープと交換してください。 ●テープ自体のひずみは直せないで、別のテープに替えてテストしてください。
音量が小さい。	<ul style="list-style-type: none"> ●主音量ツマミが「小」の位置になっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ●適当な音量にします。
再生音が歪む。	<ul style="list-style-type: none"> ●マイクレベル1、2ツマミが「小」の位置になっている。 ●マイクのプラグの接続が不完全。 ●センタースピーカーが接続されていないとき、[中央スピーカー]スイッチが「入」になっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ●適当な音量にします。 ●プラグを確実に接続します。 ●[中央スピーカー]スイッチを「切」にしてください。
再生音が途切れる。	<ul style="list-style-type: none"> ●一時停止ボタンが押されたままになっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ●もう一度押してください。
再生音が雑音が多い。	<ul style="list-style-type: none"> ●ヘッドが汚れている。 ●ヘッドが帯磁している。 ●粗悪なテープを使用している。 ●外部からの誘導雑音。 	<ul style="list-style-type: none"> ●クリーニングテープで清掃してください。 ●ヘッドイレーサーでヘッドの消磁をしてください。 ●良質テープと交換してください。 ●他の電気器具(テレビ、蛍光灯、電気毛布など)の誘導雑音の発生源から離してください。
再生音が途切れる。	<ul style="list-style-type: none"> ●キャプスタン、ピンチローラーなどの汚れ、またはテープの不良。 ●テープが一様に巻かれていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ●クリーニングテープで清掃してください。あるいはテープを交換してください。 ●早送り、または巻き戻してテープをしっかりと巻き直してください。
再生音が途切れる。	<ul style="list-style-type: none"> ●テープがゆるんでいたり、飛び出していたためキャプスタンに巻き付いてしまっている、またはテープの不良。 	<ul style="list-style-type: none"> ●鉛筆などでカセットハーフのリール軸をまわして、テープを張り直してください。
マイク再生時「フーン」という雑音が出る。	<ul style="list-style-type: none"> ●マイクとスピーカーの位置が近すぎる。 	<ul style="list-style-type: none"> ●マイクとスピーカーを離すか、マイクレベルツマミを回して、音を小さくしてください。
YMS自動選曲が正しく動作しない。	<ul style="list-style-type: none"> ●無録音部分が短い。 ●曲の途中で録音レベルが非常に低い部分がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ●自動選曲をするためには、無録音部分が4秒以上必要です。 ●その他にも自動選曲が正しくできないテープがあります。本文13ページのYMSの説明を参照してください。
ソース切換えスイッチを切ってもラジオが再生しない。	<ul style="list-style-type: none"> ●[ワイアレス]マイクレベルツマミが右に回されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ●ワイアレスマイクを使用しないときは、必ずツマミを「切」にしておいてください。
再生音が歪む。	<ul style="list-style-type: none"> ●アンプとスピーカーの位相(+、-)が合っていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ●アンプの位相(+、-)を合わせて接続しなおしてください。
ピッチャー再生時「ブーン」という雑音が出る。	<ul style="list-style-type: none"> ●ピンプラグの接続不良。 ●プレーヤーのアース線をアース端子に接続していない。 	<ul style="list-style-type: none"> ●ピンプラグをしっかりと差し込みなおしてください。 ●アース線をリアパネルアース端子に接続してください。

サービスのご依頼について

●サービスのご依頼・お問合せは、お買い上げ店、またはYAMAHA電気音響製品サービス拠点へお願い致します。

■保証期間

お買い上げ日より1年間です。

■保証期間中の修理

保証書の記載内容に基づいて修理いたします。詳しくは保証書をご覧ください。

■保証期間経過後の修理

修理によって製品の機能が維持できる場合には、お客様のご要望により有料にて修理いたします。

■補修用性能部品の最低保有期間

補修用性能部品の最低保有期間は、製造打ち切り後8年です。性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。

■サービスを依頼される前に

ご使用中に「故障ではないか」とお思いになる点がございましたら、まず本文中の「故障と思われるときには」(22ページ)をお読みになってください。意外と故障でない場合があるものです。

■持ち込み修理のお願い

故障の場合、お買い上げ店、または最寄りのYAMAHA電気音響製品サービス拠点へお持ちいただければ、出張料などの経費の点でお徳です。(右欄サービス拠点の所在地と電話番号をご参照ください。)

■カラオケの状態は詳しく

サービスをご依頼なさるときは、カラオケの状態をできるだけ詳しくお知らせください。またセットの品名、製造番号などもあわせてお知らせください。

※品名、製造番号は本機背面パネルに表示してあります。

■YAMAHA電気音響製品サービス拠点

お客様相談窓口	
東京電音サービスセンター	〒101 東京都千代田区神田駿河台3-4(龍名館ビル4F) TEL (03) 255-2241
東京ステレオサービスステーション	〒101 東京都千代田区神田駿河台3-4(龍名館ビル4F) TEL (03) 255-2241
東京電音サービスステーション	〒101 東京都千代田区神田駿河台3-4(龍名館ビル4F) TEL (03) 255-2241
横浜電音サービスステーション	〒231 横浜市中区本町6-61-1 TEL (045) 212-2223
新潟電音サービスステーション	〒950 新潟市万代1-4-8 (シルバーボールビルヤマハ新潟センター2F) TEL (0252) 43-4321
大阪電音サービスセンター	〒564 吹田市新芦屋下1-16(千里丘センター内) TEL (06) 877-5262
大阪ステレオサービスステーション	〒550 大阪市西区江戸堀1-9-1(肥後橋センタービル6F) TEL (06) 445-6421
大阪電音サービスステーション	〒564 吹田市新芦屋下1-16(千里丘センター内) TEL (06) 877-5262
四国電音サービスステーション	〒760 高松市丸亀町8-7 TEL (0878) 33-2233
名古屋電音サービスセンター	〒460 名古屋市中区栄1丁目8-7 TEL (052) 231-2432
名古屋電音サービスステーション	〒460 名古屋市中区栄1丁目8-7 TEL (052) 231-2432
浜松電音サービスステーション	〒430 浜松市東伊場2-14-1 TEL (0534) 56-9211
九州電音サービスセンター	〒812 福岡市博多区博多駅前2-11-4 TEL (092) 472-2137
九州電音サービスステーション	〒812 福岡市博多区博多駅前2-11-4 TEL (092) 472-2134
広島電音サービスステーション	〒731-01 広島市安佐南区祇園町西原2205-3 TEL (082) 874-3787
北海道電音サービスセンター	〒065 札幌市東区本町1条9丁目3番地 TEL (011) 781-3621
北海道電音サービスステーション	〒065 札幌市東区本町1条9丁目3番地 TEL (011) 781-3621
仙台電音サービスセンター	〒980 仙台市大町2丁目210 (住友生命仙台青葉通りビル) TEL (0222) 22-6144
仙台電音サービスステーション	〒983 仙台市卸町5丁目-7(卸商共同配送センター内) TEL (0222) 96-0249
お預り品修理拠点	
東京電音サービスデポ	〒171 東京都練馬区高野台2-3-10 TEL (03) 904-4986 (03) 904-4901
大阪電音サービスデポ	〒564 吹田市新芦屋下1-16(千里丘センター内) TEL (06) 877-5262
名古屋電音サービスデポ	〒460 名古屋市中区栄1丁目8-7 TEL (052) 231-2432
九州電音サービスデポ	〒812 福岡市博多区博多駅前2-11-4 TEL (092) 472-2134
北海道電音サービスデポ	〒065 札幌市東区本町1条9丁目3番地 TEL (011) 781-3621
仙台電音サービスデポ	〒983 仙台市卸町5丁目-7(卸商共同配送センター内) TEL (0222) 96-0249
本社	
営業技術課電音サービスセンター	〒430 浜松市中沢町10-1 TEL (0534) 65-1111

■日本楽器製造株式会社

本社・工場	〒430 浜松市中沢町10-1 TEL (0534) 65-1111
東京支店	〒104 東京都中央区銀座7-9-8 パールビル内 TEL (03) 572-3111
銀座店	〒104 東京都中央区銀座7-9-14 TEL (03) 572-3131
横浜店	〒220 横浜西区南幸2-15-13 TEL (045) 311-1201
大阪支店	〒542 大阪市南区南船場3-12-9 心斎橋プラザビル東館8.9F TEL (06) 251-1111
心斎橋店	〒542 大阪市南区心斎橋筋2-39 TEL (06) 211-8331
神戸店	〒650 神戸市中央区元町通2-188 TEL (078) 321-1191
名古屋支店	〒460 名古屋市中区錦1-18-28 TEL (052) 201-5141
九州支店	〒812 福岡市博多区博多駅前2-11-4 TEL (092) 472-2151
小倉店	〒802 北九州市小倉区魚町1-1-1 TEL (093) 531-4331
北海道支店	〒064 札幌市中央区南十条西1丁目 ヤマハセンター TEL (011) 512-6111
仙台支店	〒980 仙台市大町2丁目2番10号 TEL (0222) 22-6141
広島支店	〒730 広島市中区基町13-13 平和生命広島ビル8F TEL (082) 221-4122
浜松支店	〒430 浜松市田町32 TEL (0534) 54-4115
浜松店	〒430 浜松市鍛冶町122 TEL (0534) 54-4111
海外支店	ロスアンゼルス・メキシコ・ハンブルグ・シンガポール・フィリピン

住所及び電話番号は変更になる場合があります。